

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

発掘された映画たち2005

Cinema: Lost and Found 2005

7月19日(火) - 8月18日(木)

展示室(7階)

[企画展]

尾上松之助と時代劇スターの系譜

Matsunosuke Onoe and the Culture of Period Films

[常設展]

展覧会 映画遺産

—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—

The Japanese Film Heritage

— From the Non-film Collection of the National Film Center —

4月5日(火) - 5月22日(日) / 5月31日(火) - 8月18日(木) /

8月20日(土) - 10月9日(日)

8月の休館日: 月曜日および8月19日(金)



東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



2005

8

NFCカレンダー
2005年8月号

大ホール 上映作品

発掘された映画たち2005 Cinema: Lost and Found 2005

失われた映画フィルムの発掘と復元を主要な任務のひとつとするフィルムセンターは、近年あらたに収蔵したフィルムを上映する企画「発掘された映画たち2005」を開催いたします。本企画「発掘された映画たち」は、1991年から数えて第5回目にあたり、文化遺産としての映画の価値を再認識する重要な機会として認知されてきました。今回の上映作品は、1906年のフランス・パテ社が撮影した美しい染調色フィルム『保津川の急流』から、1958年の17世中村勘三郎が主演した『赤い陣羽織』までの約50年間、全56作品にわたっています。

海外からの里帰りフィルムとして、ロシアのゴスフィルムフォンドが収蔵していた戦前・戦中期の日本映画のさらなる発掘作品(17作品)に加え、今回は中国、ドイツ、オーストリア、フィンランドなど世界各国のフィルム・アーカイヴで発見された珍しい映画の数々も上映いたします。

さらに、近年フィルムセンターは最新のデジタル技術を用いて劣化したフィルムの復元を行っており、今回はその成果として、伊丹万作監督によるナンセンス時代劇の傑作『國土無双』(1932年)、溝口健二監督のサイレント期の代表作のひとつ『瀧の白糸』(1933年)、そして溝口健二監督のカラー作品『新・平家物語』(1955年)の3作品を上映します。

1895年の誕生から百年を超えた映画には、まだまだ埋もれた歴史がたくさんあります。本企画は普段なかなか見ることのできない過去の豊穡な映画文化——映画遺産——を堪能できるまたとない機会になることは間違いありません。

- 監=監督 演=演出 原=原作・原案 脚=脚本・潤色・劇化・脚色 撮=撮影 美=美術・設計・美術監督 音=音楽・作曲 出=出演 吹=吹替
- 本特集には不完全なプリントが含まれています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- 作品により上映時間が異なりますのでご注意ください。

★=ゴスフィルムフォンドで発見された作品

大ホール

- 開映後の入場はできません。
- 定員=310名(各回入替制)
- 発券=2階受付
- 料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円
- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切となります。
- シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

I 7/19(水)3:00pm 8/6(土)4:00pm

保津川の急流

(4分・16fps・35mm・染調色・無声)
映画史の初期に無数に製作された紀行映画(トラヴェログ)としては、「明治の日本」と総称される作品群などリュミエール社製がよく知られるが、これはパテ社による1本。保津川の川下りを舟上から撮影したもので、青の染色と緑の調色のコンビネーションが美しい。(素材提供:フィルムアルヒーフ・オーストリア、復元作業:ハーゲフィルム)

'06(パテ)

天地創造の映画劇

(13分・16fps・35mm・染色・無声)
宗教団体「エホバの証人」の布教活動の一環として上映されたフィルム。1914年にフィンランドで上映された記録があるが、撮影は1910年以前と考えられ、中国やインドに混ざって日本で撮影された映像が含まれている。(素材提供:フィンランド・フィルムアーカイヴ、復元作業:フィンラボ)

小林富次郎葬儀

(7分・16fps・35mm・白黒・無声)
ライオン株式会社(旧小林商店)の創業者・小林富次郎(1852-1910)の葬儀の様相を映した映像。可燃性オリジナル・ネガと当時上映に使われたポジプリント各1本が、日本最古の映画製作会社のひとつである吉沢商店の納品書とともに桐箱に入って保管されていた。確認される限り、現存するわが国最古のオリジナル・ネガである。今回上映するフィルムはこのオリジナル・ネガから直接プリントしたもので、95年前に撮影された映像の驚くべきクオリティに圧倒される。(素材提供:ライオン株式会社、復元作業:IMAGICAウエスト)

大阪倉庫の爆発

(5分・16fps・35mm・染色・無声・不完全)
タイトル・クレジットが欠落しているが、1917年5月5日に発生した大阪安治川沿岸の倉庫の爆発火災の様子を写した映像と考えられる。赤や黄色の染色が火災の映像に臨場感を与えている。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウエスト)

関東大震災実況

(18分・16fps・35mm・染色・無声・不完全)
関東大震災発生直後の映像としては、東京シネマ商会版と日活版の2本が「決死的映像」として名高いが、これまで現存しないと考えられていた後者が、一部ではあるが山形の映画館で発見された。日本橋、京橋、浅草、本所被服廠跡、蔵前、安田邸などの様子が赤や青の染色映像で鮮明に映し出される。撮影済みのフィルムを携えた高坂は9月7日に京都の日活大將軍撮影所へ到着してフィルムを現像し、即日京都帝國館で公開したという。本プリントには部分的に重複するショットや字幕の異なる字幕が見られ、兵阪新聞社『東京関東地方大震災被害実況』など別作品の混入が確認されるが、今回はそのまま上映する。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウエスト)

鏡 SPIEGEL

(16分・35mm・白黒・日本語字幕)
3度にわたる渡欧の中でフルトヴェングラーやヒンデミットに師事し、ヴァイオリン奏者・作曲家として近年評価が高まる一方の夭折の音楽家、貴志康一(1909-1937)。彼が一時帰国に傾けた情熱を物語る2作品が、このたびドイツに帰国を果たした。貴志は1931年に貴志学術映画研究所を設立し、美学者の中井正一らとともに前衛的な3本の作品を日本で撮影、そのフィルムを携えて33年にベルリンを訪れた。このうちの1本『第四作品』がウーファに買い取られ、貴志が自ら監督・音楽監督に兼任。在ドイツのオペラ歌手・湯浅初枝が出演するシーンを撮り足し、ドイツ語ナレーションと音楽を加えてトキー文化映画としてドイツで公開した。日本文化を紹介する内容に作り変えられているが、魚眼レンズや多重露光を用いた部分などに、前衛映画としての片鱗をうかがうことができる。(素材提供:ドイツ連邦アーカイヴ、復元作業:ハーゲフィルム)

春 IM FRUHLING - EIN FILM VON JAPAN- ISCHEN FRUHLINGSFESTEN

(13分・35mm・白黒・日本語字幕)
『鏡』の好評を受け、貴志が再び手持ちのフィルムに新たな映像を撮り足して作ったウーファ文化映画。春日大社祭、三船祭など、花々に彩られた日本の春祭を紹介する内容で、『鏡』には残されていた前衛映画としての性格はもはやほとんど見られぬが、作曲家としての貴志の才能を確認する上で貴重な資料である。(素材提供:ドイツ連邦アーカイヴ、復元作業:ハーゲフィルム)

'33(ウーファ=貴志学術映画研究所) ④⑤⑥貴志康一 ④ニコラウス・カウフマン ④ヴィルヘルム・ブラガー ④ヴィルヘルム・マルテン ④湯浅初枝

バンサ BEI DEN BANSA AUF BORNEO

(17分・35mm・白黒・日本語字幕)
1933年6月から8月にかけて、医学博士の小倉清太郎が、記録映画の名カメラマンでのちに『黒い太陽』(1936年)や『カラコルム』(1956年)を撮影した林田重男等とともに、当時オランダ領であった西ボルネオ奥地のジャングルを探検して、熱帯雨林の悪条件のなかでダイア族の風俗や習慣を撮影した作品。バンサとはドイツ語で種族という意味。小倉清太郎は帰国後に『首狩人種の打診 ボルネオ探検記』を出版した。編集したのは傾向映画の代表作『何が彼女をそうさせたか』(1929年)の監督として知られる鈴木重吉。本プリントはその後あらたにドイツ人によって音楽、ナレーションが付けられ、ドイツ・ウーファ社の文化映画の一篇としてドイツで公開された版である。日本における映像人類学の古層を探ることのできる貴重な発見である。(素材提供:ドイツ連邦アーカイヴ、復元作業:ハーゲフィルム)

'34(東和商事映画部) ④小倉清太郎 ④林田重男、大森昌夫 ④鈴木重吉

2 7/19(水)7:00pm 8/6(土)1:00pm

★武士道 BUSHIDO: DAS EISERNE GESETZ

(84分・18fps・35mm・白黒・無声・日本語字幕)
合作映画といえど伊丹万作とアーノルド・ファンク監督の『新しき土』(1937年)が有名であるが、本作は1924年から1925年にかけて日本で撮影され、1926年に日独両国で公開されたわが国初の本格的な国際合作映画。戦国時代の鉄砲伝来の物語をベースにしており、ハラキリとゲイシャをはじめ東洋のエキゾチズムを喚起する映像やテーマが描かれる。本プリントはドイツで公開されたドイツ語字幕版であるため、ゴスフィルムフォンドにおいては日本映画ではなくドイツ映画として管理されていた。このたび国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)のネットワークを通じて本フィルムの所在が判明し、収蔵に結びついた。

'25(東亜等持院=H・K・ハイラント・プロ) ④ハインツ・カール・ハイラント、賀古残夢 ④長野健太 ④橋本佐一 ④呂明石潮、岡島艶子、カール・テテック、ロー・ホール

3 7/20(水)3:00pm 8/7(日)4:00pm

國土無双 [デジタル復元版]

(21分・18fps・35mm・白黒・無声・短縮版)
伊丹万作の代表作のひとつでナンセンス時代劇の傑作と呼ばれている本作については、これまで9.5mmのパテベビー版(全2巻)から復元した版を公開している。今回、パテベビー版の後半部分にあたる16mmの日活グラフ版(1巻)が映画評論家・梶田章氏から寄贈されたことを機に、ふたつの素材を合わせてあらたにデジタル復元を行なった。鮮明に甦った映像で本作の魅力を改めて堪能していただきたい。なお、ふたつの素材はダイジェスト版としては同一であったため、あらたな場面が加わったわけではなく、パテベビー版の素材の劣化に由来する傷は今後の課題としていまだ数多く残っていることをお断りしておく。(素材提供:梶田章氏、プラネット映画資料図書館、復元作業:ハーゲフィルム)

瀧の白糸 [画面分割版]

(3分・24fps・35mm・白黒・無声・断片)

瀧の白糸 [部分デジタル復元版]

(102分・24fps・35mm・白黒・無声)
溝口健二監督のサイレント期の代表作のひとつである本作は、男性の立身出世と女性の自己犠牲を美しく描いた「新派もの」のひとつ。従来フィルムセンターが所蔵していた16mmプリントはラストシーンが欠落したヴァージョンであったが、近年異なる複数のヴァージョンのプリントから35mm版の「最長版」が作成された(「最長版」作成のプロセスは「NFCニューズレター」28号を参照)。今回は特に傷が激しく、鑑賞の妨げになっていた部分にデジタル復元をほどこしている。その結果にデジタル復元による映像クオリティの向上を確認していただくために、同じシーンにおける復元前と復元後の映像を、左右分割フレームで上映する(約3分間)。その後デジタル復元シーンを挿入した「最長版」を上映する。(復元作業:IMAGICA)

'33(入江ぶろくしょん) ④溝口健二 ④泉鏡花 ④東坊城恭長 ④三木茂 ④入江たか子、岡田時彦、菅井一郎、村田宏壽、見明凡太郎

4 7/20(水)7:00pm 8/7(日)1:00pm

新・平家物語 [デジタル復元版]

(107分・35mm・カラー)

角川映画株式会社とフィルムセンターの共同プロジェクトとして、溝口健二が生涯に残した2本のカラー作品のうち1本をデジタル復元した。今回の復元課題は、フィルムについた傷を除去するだけでなく、褪色したフィルムの色彩をいかに復元するかの点にあった。製作当時は洋画家・和田三造が色彩監修を担当したが、今回は当時撮影助手だった森田富士郎氏が色彩復元の監修にあたっている。平清盛の活躍と出生をめぐるドラマが、溝口監督と大映京都の一流スタッフ等によって華麗に描かれる。デジタル復元のプロセスと技術については「NFCニュースレター」59号を参照されたい。(復元作業:ハーゲフィルム)

'55(大映京都)◎溝口健二◎吉川英治◎依田義賢 成澤昌成 辻久一◎宮川一夫◎水谷浩◎坂本文雄◎市川雷蔵 久我美子 林成年 木暮実千代 進藤英太郎

5 7/21(木)3:00pm 8/13(土)4:00pm

月のかんざつ (8分・35mm・パートカラー)

小西六写真工業(現・コニカ)が独自に開発したコニカ・システムが使用された作品は1953年から59年までの間にテスト作を含めて約60本に過ぎないが、本作はそのうちの1本。撮影には、3本の白黒ネガフィルムを装填する特殊なカメラ(フィルムセンター7階展示室にて公開中)が用いられた。東映は1954年に教育映画部を設置し、本格的に学校教材用の映画製作に乗り出して教育界で高い信頼を得る。本作は月の満ち欠けや潮の満ち引きの自然現象を、実写と動画で解りやすく説明する学校教材映画。映画の結尾のみコニカカラーの色彩映像になる。(復元作業:IMAGICA)

'55(東映教育映画部)◎◎蔵田直八◎宮西良太郎

赤い陣羽織

【コニカラー・オリジナル・プリント版】

(10分・35mm・カラー・断片)

赤い陣羽織 (94分・35mm・カラー)

17世中村勘三郎(1909-1988)の初映画出演作で、木下順二の翻案戯曲を映画化したもの。勘三郎扮する代官が水車番の美しい人妻に惚れてしまい、奥方からたしなめられるという時代劇喜劇。コニカラー作品としては、フィルムセンターではこれまでに「緑はるかに」(1955年)の復元を行なっているが、本作品の3色分解ネガは取縮が激しく、復元に至っていなかった。今回、松竹株式会社と協力し、現在使われているカラーフィルムを用いて当時の色彩を再現することに成功した。比較のため、1958年当時作成されたポジプリントの断片を本篇の前に参考上映する。(復元作業:IMAGICA)

'58(歌舞伎座映画)◎山本薩夫◎木下順二◎高岩肇◎前田実◎久保一雄◎大木正夫◎中村勘三郎 有馬稲子 伊藤雄之助 香川京子 三島雅夫 多々良純 小松方正

6 7/21(木)7:00pm 8/14(日)1:00pm

★日蓮上人 龍乃口法難

(34分・16fps・35mm・白黒・無声)

ロシアで発見された日本映画のなかで最古の作品。無声期には日蓮を題材にした映画が多数作られているが、タイトル・クレジットの情報から1921年に浅草大勝館で封切られた国活版であると推測できる。クローサー・ショット、フェイドイン・アウト、アリスなどが使用された分析的な編集は純映画劇運動以後の作品であることを感じさせる。

'21(国活集鴨)◎吉野二郎◎花井日秀居士◎桂田阿弥◎青嶋順一郎◎市川蓮十郎 澤村四郎五郎 澤村四若 中村勘三郎 片岡童十郎 市川升童 阪東佳玉

稲田の草庵

(24分・16fps・35mm・染調色・無声)

1923年の「浄土真宗立教開宗七百年」記念にちなんで製作された作品。牧野省三が日活から独立して設立した牧野教育映画の貴重な現存作品。妻が夫から浮気を疑われて斬られてしまうが信仰心が篤かったために助かるという筋と、山伏の弁円が板敷山で親鸞を暗殺しようとするも親鸞一行は姿をくらませて未遂に終わるという筋のふたつから成る。障子に映る人影や、二重露光を多用した追っかけ場面は「宗教映画」に収まらない映画的な面白さに満ちている。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウエスト)

'23(伊予津島仏教映画宣伝部=牧野教育映画)◎沼田紅緑

★母と子

(22分・24fps・35mm・染色[一部白黒]・無声)

一部(白黒部分)がゴスフィルモフォンドで発見され、題名が確定できないままであったが、たまたま国内で別の一部(染色部分)が発見されたことで、ほぼオリジナルに近い長さが揃い、題名や製作年の特定にもつながった幸運な例である。母と盲目の兄との貧しい暮らしを助けるため、夜中に密かに内職をする健気な少女を描いた教育的美談。(素材提供:ゴスフィルモフォンド、プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウエスト)

'26(社会教育映画研究所)◎古林貞二◎出雲美樹 久松三岐

黎け行く村 (29分・18fps・35mm・染色・無声)

1920年の松竹キネマ設立にあわせてアメリカから帰国し、日本に最新のハリウッドの製作スタイルを導入したヘンリー小谷(1887-1972)が1927年に監督した作品。疲弊した農村で父に先立たれた兄妹が、愛郷心を胸に農業による振興策を試みる。盆踊りの夜の青や炎の赤など染色フィルムの美しさを堪能できる。元になったプリントは広島市映像文化ライブラリーに寄贈された松田完一氏所蔵フィルムで、同ライブラリーの協力によって復元した。(素材提供:広島市映像文化ライブラリー、復元作業:IMAGICAウエスト)

'27(都商会)◎ヘンリー小谷◎伊志井寛 橘重子 山田直 八田新一

7 7/22(金)3:00pm 8/18(木)7:00pm

温泉悲話 三朝小唄

(60分・18fps・35mm・白黒・無声)

『船頭小唄』(1923年)や『籠の鳥』(1924年)のヒット以来、日本の無声映画期には上映中にスクリーン脇で歌手が主題歌を歌う小唄映画が数多く製作された。本作もその1本で、画面中に「三朝小唄」の歌詞が現れる。三朝町に住む娘(岡島)と東京からやって来た画家(秋田)の悲恋もの。ロケ撮影を行ったマキノ映画が感謝の印として贈った可燃性フィルムが三朝町に保管されていた。本篇終了後に三朝町の風景やロケ撮影時のスタッフの様子を記録した映像が添えられている。マキノ映画は本作のヒットを受けて、『祇園小唄』、『鴨川小唄』、『嵐山小唄』(すべて1930年)などの小唄映画を量産した。(素材提供:鳥取県三朝町、復元作業:IMAGICAウエスト、協力:立命館大学アートリサーチセンター)

'29(マキノ御室)◎◎人見吉之助◎木村角山◎岡島艶子 秋田伸一 岡村義男 藤川澄子 マキノ正美 石川良平 柳妻麗三

少年諸君 (28分・24fps・16mm・白黒・無声)

独特の風貌で個性的な演技を見せた伊藤雄之助、東映時代劇の名悪役のひとり澤村宗之助、そして同じ俳優の澤村敏之助(伊藤寿章)は、歌舞伎俳優・澤村宗之助を父とする3人兄弟である。父の死後、兄弟は1932年に「兄弟プロダクション」を設立して映画製作に乗り出す。本作はその第1回作品。3兄弟の映画デビュー作でもある。当時はトーキーとして製作されたが、本プリントは字幕の入った無声版。東京から田舎へ引っ越してきた3兄弟が村の少年たちと心を通わせるまでを描く。その後、兄弟プロダクションは『少年忠臣蔵』(1933年)を製作するが経営不振でまもなく倒産した。(素材提供:広島市映像文化ライブラリー、復元作業:IMAGICAウエスト)

'32(兄弟プロダクション)◎◎高田保◎鈴木博 早船彌壽次◎澤村宗之助 澤村敏之助 澤村雄之助 澤村美永子 河村芳栄

岐路 (27分・18fps・16mm・無声)

スピード時代が到来して自動車が街を疾走しはじめる。人力車は過去の遺物となってしまう。貧乏車夫の物語で、正直さの美德をたたえる教育映画。監督の竹内俊一は戦前に児童向けの教育映画を数多く製作した。脚本の柳武史とカメラの寺田清彦のコンビは、戦時下に文化映画『洗濯の科学』(1940年)を製作することになる。(素材提供:広島市映像文化ライブラリー、復元作業:IMAGICAウエスト)

'33(テラダ映画)◎竹内俊一◎柳武史◎寺田清彦

8 7/22(金)7:00pm 8/10(水)3:00pm

勝鬨 (76分・18fps・35mm・染色・無声・不完全)

ラストを含むいくつかのシーンが欠落した不完全版ではあるが、35mm可燃性プリントから復元した染色フィルムの鮮かさを堪能できる月形龍之介主演の時代劇。八代欣之助(鹿島)とその妹・お貞(マキノ)の仇討ち旅に加わった三平(月形)と享助(岩城)の兄弟に降りかかる数奇な運命。(素材提供:中部日本教映、復元作業:育映社)

'26(マキノ御室)◎勝見正義◎◎西條照太郎◎石本秀雄◎月形龍之介 マキノ輝子 鹿島陽之助 岩城秀哉 鈴木澄子 児馬武彦 市川小文治 久利富周介

★護持院ヶ原の火華

(39分・18fps・35mm・白黒・無声・部分)

戦前娯楽時代劇の旗手で、宝塚、エトナ、極東などいわゆる「B級プロダクション」を渡り歩いた後藤山監督の数少ない現存フィルム。宝塚キネマは1932年から1934年までマキノ御室撮影所跡地に存続した小プロダクション。寛寛十郎(羅門)は自分の許婚・三輪(月宮)を奪った左膳を斬って逃走。その途中で、武士の新六(阪東太郎)を危機から救った。左膳の遺児・左喜太(市川)は父の仇を討つため、護持院ヶ原寛十郎を呼び出す。主演の羅門光三郎の芸名は、メキシコ出身のハリウッドスターであったラモン・ノヴァロと師匠の光岡龍三郎の名前にちなんでつけられた。

'33(宝塚キネマ)◎後藤山十郎◎◎西條照太郎◎平野好美◎羅門光三郎 月宮乙女 阪東太郎 毛利峰子 武者小路五郎 矢野伊之助 市川龍男

9 7/23(土)1:00pm 8/3(水)7:00pm

西南戦争悲史 孝女白菊

(44分・18fps・35mm・白黒・無声)

家庭小説や唱歌として親しまれた孝女白菊の物語は、もともと1888年に国文学者の落合直文が、東大教授の井上哲次郎が創作した漢詩を新体詩に書き直したものの。西郷軍に志願する父と、父に反発して家出する兄との葛藤が描かれるとともに、薄幸の本田白菊の出生の秘密が明らかされる。東亜甲陽撮影所は兵庫県西宮市にあった現代劇スタジオで、1923年から1927年まで存続した。(素材提供:広島市映像文化ライブラリー、復元作業:IMAGICAウエスト)

'25(東亜甲陽)◎賀古残夢◎◎榎山美登◎河崎喜久三◎上村節子 石川秀道 荒木忍 中川芳江 月岡正美

★山村の光 (56分・18fps・35mm・白黒・無声)

「発掘された映画たち2003」で上映した『晴れ行く空』(1927年)や『親』(1928年)と同様に、簡易保険局が松竹蒲田に委託した宣伝映画。田舎で暮らす娘が母親の治療費を工面するために東京に出て働く物語。たとえ生活が苦しくても、簡易保険を堅実に払ってゆけば困ったときに救われるものだという教訓をストレートに訴える。松井稔は清水宏の助監督から一本立ちした監督で、別プログラムで上映される『陸軍大行進』の共同監督も務めている。

'31(松竹蒲田)◎松井稔◎簡易保険局◎松崎博臣◎杉本正二郎◎若水照子 結城一郎 飯田蝶子 石山龍嗣 河村黎吉 菅原秀雄

10 7/23(土)4:00pm 8/4(木)3:00pm

★愛と憎しみ 涙の惨劇

(71分・18fps・35mm・白黒・無声)

1932年に実際に起こった「玉の井バラバラ事件」を映画化した際作映画。ある家族が浅草で知り合った乞食(草間)を親切心から家へ連れ帰るが、その乞食のために家族が不幸に見舞われ、ついに殺人事件に発展するという悲劇。戦前から戦後まで活躍した八尋不二の脚本が当時の映画批評で高く評価された。

'32(新興東京)◎中島宝三◎◎八尋不二◎藤井静◎若菜馨 上田寛 徳川良子 隅田ます代 森山保 橋光浩 草間実 金澤美都子

★乙女橋 (54分・24fps・35mm・白黒)

簡易保険局が企画して新興キネマが製作した宣伝映画。村と村の間を流れる大きな川には橋が架かっていないために、村民たちは綱を頼りに危険を犯して行き来していた。あるとき娘が急流に流され命を落としてしまう…。キヤメラは黒澤明や成瀬巳喜男監督など巨匠の作品を数多く担当した中井朝一。監督の川手二郎はこのあと新興キネマで数本の監督をしたあと、P.C.L.に移籍して文化映画を演出した。

'36(新興東京)◎◎川手二郎◎簡易保険局◎中井朝一◎江川なほみ 姫宮接子 隅田万寿代 三樹豊 岡崎光彦

11 7/24(日)0:00pm 8/5(金)2:00pm

銀河(188分・18fps・35mm・白黒・無声)

新聞連載小説の映画化で、清水宏が15巻の超大作をわずか20日間ほどで完成させた。小津安二郎や成瀬巳喜男がスキー場面を応援監督したという。長らく松竹に未編集のまま保存されていた16mmマスターポジを今回あらたに編集して、35mm素材を作成した。実業家寺尾(藤野)の愛娘である道子(八雲)は、画家の関(日守)を愛していた。道子には乳姉妹の照枝(川崎)がいた。あるとき道子は照枝の兄の莊一(高田)に乱暴されて身籠ってしまい、世間体を考えてやむなく父の秘書の長島(奈良)と結婚する…。(復元作業:IMAGICAウェスト)

'31(松竹蒲田)清水宏加藤武雄村上徳三郎佐々木太郎八雲恵美子高田稔川崎弘子日守新一藤野秀夫吉岡満子斎藤達雄山縣直代月田一郎小林十九二伊達里子山本冬郷

12 7/24(日)4:00pm 8/12(金)7:00pm

輝く愛(38分・35mm・白黒・弁士解説版)

松竹文化映画部が文部省に委託されて製作した教育映画で、1931年5月に完成したが一般公開されずにお蔵入りとなった幻の映画。病気のため撮影途中で降板した西尾佳雄に代わり、清水宏が後半部分を監督した。本作は伴奏音楽、効果音、そして弁士の解説が付されたいわゆる「弁士解説版」である。桶屋の息子・三吉(小藤田)と、裕福な家庭の息子・信治(半田)の成長を対照的に描くことで清貧と勤勉の美德を啓蒙する「教育映画」であるが、意表をついたコミカルなシーンや追っかけシーンもあり、娯楽作品としての完成度は高い。(復元作業:IMAGICA)

'31(松竹文化映画部)清水宏西尾佳雄松崎博臣野村英小藤田正一半田日出丸野寺正一早見照代小村新一郎富士龍子

陸軍大行進

(88分・24fps・35mm・白黒・無声[一部サウンド版]・不完全)

明治天皇が1882年に下した軍人勅諭の50周年記念作品として東西の松竹のスタッフ・キャストが結集した大作。原始時代から連綿と継承されてきた日本人の「軍人精神」が高らかに謳いあげられる。上映フィルムは、ロシアで発見された3巻分のサウンド版と、フィルムセンターが保管していた無声版7巻をつなぎ合わせた現時点における「最長版」であるが、ラストは欠落している。物語は田村鏡(歴史的には「村田鏡」)を開発した田村と盟友松山のふたつの家族が軸となっている。(復元作業:IMAGICA)

'32(松竹)清水宏佐々木康石川和雄松井稔井上金太郎渡邊哲櫻井忠温吉田百助松崎博臣小田瀬太郎佐々木太郎杉本正吉青木勇石村蘇鉄森尾鉄郎奈良真養河村黎吉藤野秀夫花岡菊子江川宇鉄雄城多二郎高田浩吉川田芳子林長二郎岩田祐吉

13 7/26(火)3:00pm 8/4(木)7:00pm

★民族の叫び

(61分・18fps・35mm・白黒・無声・不完全)

昭和天皇の即位を祝う「御大典奉祝記念映画」として製作され、満鉄の後援によって大規模なロケーション撮影が行われた大作。親子二代に渡って日中友好に尽くした日本人と中国人の物語。草創期から松竹蒲田を支えた監督の野村芳亭は、今年逝去した野村芳太郎(1919-2005)の父。

'28(松竹蒲田)野村芳亭黄子明吉田百助小田濱太郎岩田祐吉井上正夫筑波雪子清水一郎

★九條武子夫人 無憂華

(39分・35mm・白黒・不完全)

大谷光尊の次女として西本願寺に生まれ、12歳で九條良致男爵に嫁いだ九條武子(1887-1928)は、大正期に活躍した歌人であるとともに、関東大震災時には救済事業に奔走するなど慈善活動も積極的に行った歴史上の人物である。本作は彼女の生涯を描いた伝記映画で、東亜キネマは当時大規模な宣伝を行い興行的な成功を収めた。もともと無声映画として製作されたが、本プリントは後年再編集されたトーキー版。

'30(東亜京都)根津新九條武子山中峯太郎柳原輝子河崎喜久三本願寺薬地時別院雅楽部三原那智子鈴木京子高野豊洲久世小夜子小川雪子中村園枝岡田静江

14 7/26(火)7:00pm 8/17(水)3:00pm

★中山七里

(37分・21fps・35mm・白黒・不完全)

本作は初の時代劇オールドキーとして喧伝された話題作で、『ふるさと』(溝口健二監督、1930年)とともに、ミナトーキー方式で録音された数少ない作品。開発した皆川芳造は、リー・デフォレストが発明したフォノフィルムの研究を積み、1927年から「ミナトーキー」と称してトーキー映画の製作を開始。1929年からは発声映画株式会社を設立して『ふるさと』や本作などを発表するが、フォノフィルムが他の技術と比較して劣っていたため1931年に製作を中止した。現存プリントは冒頭部分をはじめいくつかのシーンが欠落しているが、政吉の恋人おさんが餌差屋の主人に操を破られて自害するくだりから、政吉がおさんに瓜二つのお仲に出会うまでが描かれている。

'30(ミナトーキー)落合浪雄長谷川伸ヘンリー小谷奥津武成生利男市川小太夫春野歌子松本高麗五郎石山健二郎

美丈夫左京

(48分・35mm・白黒・弁士解説版)

本プリントは1931年の無声映画「美丈夫左京」のインタータイトルを切り取った上で、あらたに伴奏音楽や弁士の解説をサウンドトラックに焼きこんだいわゆる「弁士解説版」。タイトルも『恋慕薩摩飛脚』と変更されている。幕府巡検使の竹中左京(林長二)が、密貿易で暴利をむさぼっていた薩摩藩へ潜入して悪事を暴くという物語。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウェスト)

'31(松竹下加茂)星哲六水足蘭秋森尾鉄郎林長二郎(長谷川一夫)北原露子浦波須磨子志賀靖郎高松錦之助東栄子中村吉松上田吉次郎

15 7/27(水)3:00pm 8/11(木)7:00pm

忠治活殺剣(48分・35mm・白黒・不完全)

マキノ正博が所長を務めるマキノトーキーが製作した“国定忠治もの”の一篇。忠治が偽名を使って居酒屋に住み込んでみると、忠治の捕縛を目指す目目し伊三郎が子供をつれてやってくる。さらに山城屋勝蔵に娘を売りにきた父親が、勝蔵の計略で身包みを剥がされるにおよんで、忠治は義侠心から山城屋へ殴り込む。マキノ正博の回想から、本作は伊藤大輔が監督した「忠次旅日記」3部作(1927年)のシナリオをマキノが借り受けて製作されたものと推測できる。実際タイトル・クレジットに「原作・伊藤大輔」とあり、忠治に想いを寄せるお象のシーンも現存する『忠次旅日記』と見紛うばかりである。上映フィルムは結末部分が欠落している不完全版。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウェスト)

'36(マキノトーキー)久保義義マキノ正博伊藤大輔比佐芳武大森伊八マキノ管弦楽団清水英太郎大内弘大倉千代子大久保清子原駒子葉山純之輔光岡龍三郎浅野進二郎大倉文男島津勝二林誠太郎西村清

★追分三五郎(60分・35mm・白黒)

1930年代半にしばしば製作された「浪曲映画」の1本で、廣澤虎造の味わい深い唸りを堪能できる。清水次郎長の子分である追分三五郎と森の石松が恋の鞘当てを繰り広げ、金毘羅参りにおもむいた森の石松が都鳥一家に殺されると三五郎は仇討ちを決意する。太秦発声は1933年に京都に設立されたトーキー専門の製作会社で、日活と提携して本作以外にも『新・佐渡情話』(清瀬英次郎監督、1936年)などの浪曲映画をいくつか製作した。

'35(太秦発声=日活)辻吉朗小磯夏男河崎喜久三黒川彌太郎花井蘭子廣澤虎造市川小文治鳥羽陽之助阪東勝太郎尾上桃華高崎健太郎大崎史郎林雅美上田吉二郎五月潤子衣笠潤子

16 7/27(水)7:00pm 8/12(金)3:00pm

第二の母(45分・35mm・白黒)

1934年に設立され1942年に戦時統合で閉鎖された日活多摩川撮影所はおもに現代劇を製作していた。ゴスフィルムフォンドから収蔵された7つの多摩川作品のうち1本である本作は、ほぼ完全な形をとどめた貴重なもの。有名画家の父を失って身寄りをなくしてしまった姉弟の愛情を描いた作品。なめらかにシーンを省略することによってコンパクトな佳作に仕上がっている。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウェスト)

'36(日活多摩川)山口哲春原政久小国英雄福田寅次郎中野かほる伊沢一郎井染四郎佐藤園治大島屯石井美英子紅沢葉子

怪猫謎の三味線(74分・35mm・白黒)

新興キネマは1930年代後期に数多くの怪談映画を生み出したが、とりわけ『佐賀怪猫伝』(1937年)にはじまる鈴木澄子主演の“怪猫映画”は、『山吹雪』(1940年)まで6作品が製作されたヒットシリーズ。監督の牛原虚彦は多重露光、特殊レンズ、スローモーション撮影などを使用して恐怖感を巧みに演出する。三味線弾きの清二郎(浅香)が飼っている猫が、あるとき武家の娘おきよ(歌川)のところへ迷い込み、二人は仲良くなる。それを見ていた清二郎の恋人三津枝(鈴木)は嫉妬に燃えて…。本プリントは再公開版で、タイトルは「恩讐謎の怪猫」と変更されている。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウェスト)

'38(新興京都)牛原虚彦波多謙治高橋武則呉守邦鈴木澄子浅香新八郎歌川絹枝高山廣子森静子嵐徳三郎伴淳三郎南部章三寺島貞尾上榮五郎梅村蓉子三保敦美森光子浅野八重子浅野百合子松本泰輔

17 7/28(水)3:00pm 8/13(土)1:00pm

海魔陸を行く(53分・35mm・白黒)

漁師に生け捕られた蛸が酢ダコにされる直前に蛸壺から脱出し、さまざまな天敵に遭遇しながらも故郷の海を目指すという荒唐無稽な実写映画で、徳川夢声が蛸の声を担当している。カマキリ、蜘蛛、蛇、ウツボなどの生態を超クロスアップで捉えたシーンは科学映画としても楽しめる。ラジオ映画は1947年から1953年ごろまで存在した会社。戦時下に『病院船』(1940年)を監督し、戦後の『白い山脈』(1957年)でカンヌ映画祭の賞を受賞した今村貞雄が代表を、さらに小津の初期作品のキャメラマン茂原英雄が監査をつとめている。本プリントはタイトル・クレジット部分のほか、数箇所のシーンが欠落している。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウェスト)

'50(ラジオ映画)伊賀山正徳今村貞雄松永六郎福田寅次郎伊藤宣二徳川夢声

鉄扇公主(西遊記 鐵扇公主の巻)

【日本語吹替版】(65分・35mm・白黒)

中国におけるアニメーション映画の創始者・萬兄弟が1941年に製作したアジア初の長篇アニメーションで、孫悟空、沙悟浄、猪八戒が三蔵法師を守りながら鉄扇姫や牛魔王と戦う大活劇。監督の萬籟鳴と萬古蟾はアニメーションの「白雪姫」(1937年)に衝撃を受けて長篇アニメの製作に乗り出したという。中国映画界の辣腕プロデューサー張善琨が企画し、厳選された100名近いスタッフが2年間の歳月をかけて製作した。今回発見されたのは1942年に日本で公開された日本語吹替版であり、徳川夢声が日本語版の演出を担当している。本作は手塚治虫が少年時代に大きな影響を受けた作品としても知られており、漫画「ぼくはそんごう」(1952-1959年)や東映の長篇アニメ「西遊記」(1960年)へとつながっていった。(素材提供:川喜多記念映画文化財団、復元作業:IMAGICA)

'41(中華聯合製片公司)萬籟鳴萬古蟾王乾白劉度共陳正發徳川夢声山野一郎牧野周一丸山章治松井美明水谷正夫荒井雅吾月野道代小野松枝神田千鶴子

18 7/28(木)7:00pm 8/16(火)3:00pm

★特別任務班 日露戦争秘史 興亜の人種

(49分・35mm・白黒)

日露戦争時の歴史的人物である横川省三と沖禎介を主人公にした戦意高揚映画。北京において結成された「特別任務班」の一員として、ロシア軍に対する諜報活動を行った横川省三と沖禎介らは、1904年に鉄道爆破を図ったがロシア軍に捕らわれて銃殺される。なお別プログラムで上映する『陸軍大行進』にも横山と沖を連想させる人物が登場している。

'41(旭日映画)山下元廣岡野進一福田宗吉浅岡信夫福田満洲西條春代子

★姿なき敵(52分・35mm・白黒・不完全)

太平洋戦争下、アジア各地で対敵プロパガンダ放送に従事した「放送決死隊」の活躍を描いたもので、メディア戦争の系譜を探る上で貴重な作品。日本放送協会(NHK)の協力のもとに製作された。主人公がラジオ放送によって反日運動に参加している中国人を説得するシーンの一部が欠落しているが、話の流れをつかむことは可能である。

'45(大映東京)千葉泰樹並木亮小川記正秋野栄久高橋康一横田昌久宇佐美洋佐伯秀男山本冬郷北郷二見明夫太朗大井正夫花辰辰男隅田一男石黒達也岩村英子平井岐代子村田知英子

19 7/29(金)3:00pm 8/14(日)4:00pm

萬世流芳

(151分・35mm・白黒・日本語字幕付)

1842年に締結された不平等条約である南京条約の100周年を記念して、アヘン戦争における中国の英雄・林則徐の活躍を史実と虚構を交えながら描いた大作。上海の中華聯合製片会社の撮影所で製作され、1944年に日本でも公開された。満映のスター李香蘭(山口淑子)と中国のスター陳雲裳、高占非、袁美雲が共演している。本作は林則徐だけでなく、史実に存在しない林則徐の昔の恋人・張静嫻の自己犠牲的行為や、李香蘭演じる船売り娘の風姑の活躍にも力点が置かれている。このたび中国電影資料院から35mmポジを入手した。(素材提供:中国電影資料院)

'42(中華聯合製片公司=中華電影=満映)◎ト萬蒼、朱石麟、馬徐維邦、張善琨、楊小仲◎周胎白◎朱石麟◎周達明、余省三◎林業憲◎高占非、李香蘭、陳雲裳、袁美雲

20 7/29(金)7:00pm 8/11(木)3:00pm

★別離傷心(46分・35mm・白黒・不完全)

中国大陸の村落を支配する日本人軍人と村民の“心の交流”を描いた戦時下のプロパガンダ映画。日本人に敵意を抱いて反日ゲリラに協力する中国人女性が、日本人軍人の“温情”に触れて徐々に日本軍を受け入れてゆく。監督の市川哲夫は女優市川春代の弟。原作の伊地知進は第12回直木賞候補に選ばれた文学者で、翌1942年には『將軍と参謀と兵』を書いて映画史に名を刻んだ。

'41(日活多摩川)◎市川哲夫◎伊地知進◎岡田豊◎山崎安一郎◎飯田景広◎山田耕子、永田靖、水島道太郎、鳴海浄、井東日出夫、大町文夫、小峰千代子

★家(76分・35mm・白黒)

日本における祖先崇拝と“家”の思想を、ある旧家の兄弟の物語にからめて説く戦時下の作品。ある事情から次男が当主となって家督を受け継ぎ、一方長男は分家を立てた。あるとき次男が破産してしまい先祖が眠る屋敷を手放すことになるが…。倉谷勇は1933年に日活京都撮影所に入社して稲垣浩監督に師事した監督で、その後大都映画から松竹へ移籍した。本作は松竹入社第1回作品。当時の資料によると、演出指導に内田吐夢が、撮影指導に伊佐山三郎が当たったという。

'43(松竹太秦)◎倉谷勇◎諏訪三郎◎陶山鉄◎源佑介◎小杉勇、小澤栄太郎、東野英治郎、風見章子、紅澤葉子、山内明、蒲花久子、團徳徳、戸田春子、殿山泰司

21 7/30(土)1:00pm 8/5(金)7:00pm

★海賊旗吹ッ飛び

(75分・35mm・白黒・不完全)

薩摩藩士がイギリス人を殺害した文久二(1862)年の生麦事件と、それに続く薩英戦争を描いた戦意高揚映画。東宝から松竹下加茂の撮影所長に移籍したマキノ正博が総指揮にあたった。監督の辻吉朗(1892-1945)は1910年代から日活で活躍した第1世代の時代劇監督で、本作が遺作となった。また共同監督のマキノ貞三は牧野省三の三男で、もともと辻吉朗のチーフ助監督を努めていた。

'43(松竹下加茂)◎辻吉朗、マキノ貞三◎絲屋寿雄、小倉次郎◎マキノ貞三、瀧澤一◎三木滋人、服部幹夫◎大沢寿人◎高田浩吉、宮城千賀子、澤村國太郎、尾上菊太郎、斎藤達雄、坂本武、西村青児、大塚紀男、朝霧鏡子、橋美佐子、岡村文子

22 7/30(土)4:00pm 8/9(火)3:00pm

★笑う地球に朝がくる

(42分・35mm・白黒・不完全)

地方を巡業する貧乏劇団に次々と降りかかる災難を描いた喜劇で、当時の芸人たちが特別出演している。本作を製作した南旺映画は、1933年に「映画国策樹立に関する建議案」を衆議院に提出して国家による映画統制を基礎づけた代議士岩瀬亮が1939年に設立した会社。『空想部落』(1939年)を皮切りに、『秀子の応援隊長』(1940年)や『煉瓦女工』(1940年、公開は1946年)などを製作して1941年に東宝に吸収された。

'40(南旺映画)◎津田不二夫、千葉泰樹◎南せん子◎東健◎杉井幸一◎岸井明、東喜代駒、大竹タモツ、エド・カント、中川辨公、楠本武志、三遊亭金馬、飯山茂雄、櫻川忠七、村山進一

サザエさん 七転八起の巻

(53分・35mm・白黒)

1946年以降「夕刊フクニチ」や「朝日新聞」に連載された人気漫画「サザエさん」の映画化作品としては、東宝で製作された江利チエミ主演のシリーズ(計10作、1956-1961年)が有名であるが、本作は1948年に製作された初映画化作品。雑誌記者をしているサザエさんが、友人の妹の入院費を捻出するために奔走するという物語であるが、原作漫画をそのまま忠実に再現している。服部良一が作曲した軽快なレビューシーンがふんだんに盛り込まれている。「マキノ映画」はマキノ眞三と宮城千賀子夫婦が1948年に設立した会社で、が「桜御殿」(1948年)と本作を世に出すことに成功した。(素材提供:プラネット映画資料図書館、復元作業:IMAGICAウェスト)

'48(マキノ映画)◎荒井良平◎長谷川町子◎京都伸夫◎藤井春美、平野好美◎服部良一◎東屋トシ子、木野浩、宮城千賀子、滝沢静子、沢蘭子、服部富士、オリエ津坂、平野邦彦、小笠原マリ子、大伴千春、美川真砂子、井上清

23 7/31(日)1:00pm 8/17(水)7:00pm

一谷嫩軍記

(107分・35mm・パートカラー)

東京劇場を1950年1月28日と29日の2日間借り切り、初代中村吉右衛門(1886-1954)の当たり狂言「熊谷陣屋」を撮影した記録映画(撮影前日までは17世中村勘三郎の襲名披露興行が同劇場で行われていた)。マキノ正博が監督、岡崎宏三等がカメラを担当しており、カメラ8台(9台という記録もある)を操作しながら同時録音で撮影された。タイトルバックと見せ場のワンシーンのみカラー映像に。使用されたフィルムは翌年1951年に公開される初の長篇カラー作品「カルメン故郷に帰る」で本格的に用いられたリバーサル方式の「フジカラー」である。(素材提供:川喜多記念映画文化財団、復元作業:育映社、IMAGICA)

'50(プレミアピクチュア)◎マキノ正博◎並木宗輔、他◎岡崎宏三、他◎中村吉右衛門、中村芝翫、松本幸四郎、中村勘三郎、澤村訥升、中村又五郎、中村吉之丞

24 7/31(日)4:00pm 8/9(火)7:00pm

歌麿(14分・35mm・カラー)

浮世絵師・喜多川歌麿(1753-1806)の繊細な技法を解き明かしてゆく記録映画で、小西六写真工業が開発したリバーサル方式のさくらカラー・フィルムを使用している。監督に時代小説家の那枝完二、考証指導に浮世絵研究家の吉田映二、浮世絵の実技指導に太田雅光があたっている。本作には当時の日本映画では珍しいあらゆる女性の裸体描写が含まれているが、これらのシーンは当然ながら映倫審査で問題視され、「髪すきの女の乳房露出場面」などの削除が実行されたと審査記録に記述されている(しかし本プリントにはなぜかそれらのシーンがすべて残っている)。(素材提供:川喜多記念映画文化財団、復元作業:IMAGICA)

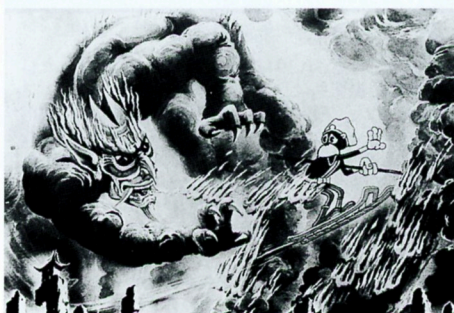
'52(秀映社)◎住田映介◎山田耕造

菅原伝授手習鑑

(88分・35mm・パートカラー)

マキノ正博が『一谷嫩軍記』に引き続き中村吉右衛門後援会の依頼で監督した初代中村吉右衛門の記録映画。1950年5月27日に名古屋御園座で吉右衛門一座が公演していた「寺子屋」を撮影している。マキノ正博の回想によると、富士フィルムからフジカラー・フィルムの試作品3000フィートが提供され、ライティングに苦労しながら撮影したという。(素材提供:川喜多記念映画文化財団、復元作業:育映社、IMAGICA)

'50(プレミアピクチュア)◎マキノ正博◎竹田出雲、他◎飯野博三郎、宮西良太郎◎中村吉右衛門、中村芝翫、松本幸四郎、澤村訥升、中村吉之丞、中村又五郎、山川榮五郎、中村萬之助



鉄扇公主

25 8/2(火)3:00pm 8/10(水)7:00pm

怪傑ハヤブサ [第一篇~第四篇]

(計77分・35mm・白黒・不完全)

1930年代後半にアクロバティックな演技で大都映画のスターとなったハヤブサ・ヒデトが、戦後に監督・主演した珍しい作品。怪傑ハヤブサがギャングの悪事を暴くというストーリーで、ハヤブサはピルの谷間を綱渡りで移動し、ダグラス・フェアバンクスのように船上で大アクションを繰り広げる。大跳躍篇、鉄壁突破篇、海上猛闘篇、解決篇の全4篇から成るが、上映プリントは海上猛闘篇の冒頭部分のサウンドが欠落している。1948年に設立された「映画配給社」は、やはり当時往年のスターであった上山草人を主役に据えた『龍眼島の秘密(第一部~第三部)』(1950年)なども製作している。(素材提供:川喜多記念映画文化財団、復元作業:IMAGICA)

'49(映画配給)◎ハヤブサ・ヒデト◎有吉光也◎山田直樹◎高間秀治、赤川博臣◎長谷川ひとみ、柏正子、稲葉正一、吉岡フランク、有島一郎

26 8/2(火)7:00pm 8/18(木)3:00pm

銀輪

(12分・35mm・カラー・英語版・日本語字幕なし)

のちに実験映画作家となった松本俊夫が、PR映画会社に在籍していた時代に製作を率いた、日本自転車工業会の海外PR用短編。少年の自転車へのあこがれを幻想的な表現で映画化した一種のシネポエムで、日本の実験映画史においても伝説的な作品とされていた。松本は、前衛芸術グループの実験工房とともに構想をまとめ、さらに武満徹らが鳥の鳴き声を変形したミュージック・コンクレートを全面的に導入した。円谷英二の特撮技術を得たことで特筆に値する。

'55(新理研映画)◎矢部正男、松本俊夫、樋口源一郎◎北代省三、山口勝弘、松本俊夫◎荒木秀三◎特撮)円谷英二◎北代省三、山口勝弘◎武満徹、鈴木博義

心の故郷(77分・35mm・白黒・日本語字幕付)

母親に捨てられお寺に預けられた少年と、一人息子を亡くした母親の交流を詩情あふれる映像で描いた作品。成世徳の戯曲「童僧」が原作であり、母親役の崔銀姫は本作で一躍人気女優となった。豊田四郎の助監督をつとめたこともある尹龍奎の初監督作品。尹監督は本作の製作直後に北朝鮮へ渡り、さらに映画監督として活躍した。数年前に16mmプリントが発見されて韓国映像資料院に収蔵されたが、今回日本国内であらたに35mmオリジナル・ネガが発見された。(素材提供:川喜多記念映画文化財団、復元作業:IMAGICA)

'49(東西映画企業社)◎尹龍奎◎成世徳◎韓達模◎崔銀姫、卞基鍾、柳民

27 8/3(水)3:00pm 8/16(火)7:00pm

★現代日本 教育篇・子供篇・産業篇

(計27分・35mm・白黒・英語版)

海外に日本を紹介する目的で製作された文化映画「現代日本」シリーズは全9篇あるが、今回上映するのはロシアで発見された教育篇・産業篇と、フィルムセンター既所蔵の子供篇の3篇である。特に子供篇は世界的洋画家の藤田嗣治(1886-1968)が監督した珍しい作品。本シリーズの企画および配給を行ったのは1935年9月に外務省幹旋のもとに設立された国際映画協会で、翌1936年には外務団体として正式に事務局が設けられた。本シリーズには英語版と日本語版が存在したが、上映プリントは海外で上映された英語版である。

'37(東亜発声ニュース)◎鈴木重吉[教育篇、産業篇]、藤田嗣治[子供篇]◎山田耕作、小松平五郎

★日本の姿 [第一篇~第六篇]

(計69分・35mm・白黒・一部英語版)

鉄道省は1910年代から旅客課において観光宣伝映画を盛んに製作しており、さらに1930年には外務団体の国際観光局が設立されて外国人向けの宣伝映画も輸出するようになった。村田薫は1928年から1939年まで鉄道省に属し、80以上の宣伝映画を監督している。本作も村田が監修した作品のひとつで、全6作が製作された(敬神崇祖、都市と文化、新興産業、青年徒歩旅行、勤勞の村々、聖地高千穂)。これまでフィルムセンターが所蔵していたのは第1作から第5作までであったが、今回ロシアで「聖地高千穂」が発見されてシリーズ全作が揃った。

'39(鐵道省)◎村田薫◎朝日映画◎諸井三郎

月	火	水	木	金	土	日
7月	1 保津川の急流 他 (計93分) 3:00pm	3 國士無双 他 (計126分) 3:00pm	5 赤い陣羽織 他 (計112分) 3:00pm	7 三朝小唄 他 (計115分) 3:00pm	9 孝女白菊 他 (計100分) 1:00pm	11 銀河 (188分) 0:00pm
	2 武士道 (84分) 7:00pm	4 新・平家物語 (107分) 7:00pm	6 日蓮上人 龍乃口法難 他 (計109分) 7:00pm	8 勝鬨 他 (計115分) 7:00pm	10 愛と憎しみ 涙の惨劇 他 (計125分) 4:00pm	12 輝く愛 他 (計126分) 4:00pm
	13 民族の叫び 他 (計100分) 3:00pm	15 忠治活殺剣 他 (計108分) 3:00pm	17 鉄扇公主 他 (計118分) 3:00pm	19 萬世流芳 (151分) 3:00pm	21 海賊旗吹ッ飛び (75分) 1:00pm	23 一谷嫩軍記 (107分) 1:00pm
	14 中山七里 他 (計85分) 7:00pm	16 第二の母 他 (計119分) 7:00pm	18 姿なき敵 他 (計101分) 7:00pm	20 別離傷心 他 (計122分) 7:00pm	22 サザエさん 他 (計95分) 4:00pm	24 菅原伝授手習鑑 他 (計102分) 4:00pm
8月	1 怪傑ハヤブサ (77分) 3:00pm	27 現代日本 他 (計96分) 3:00pm	10 愛と憎しみ 涙の惨劇 他 (計125分) 3:00pm	11 銀河 (188分) 2:00pm	2 武士道 (84分) 1:00pm	4 新・平家物語 (107分) 1:00pm
	26 心の故郷 他 (計89分) 7:00pm	9 孝女白菊 他 (計100分) 7:00pm	13 民族の叫び 他 (計100分) 7:00pm	21 海賊旗吹ッ飛び (75分) 7:00pm	1 保津川の急流 他 (計93分) 4:00pm	3 國士無双 他 (計126分) 4:00pm
	22 サザエさん 他 (計95分) 3:00pm	8 勝鬨 他 (計115分) 3:00pm	20 別離傷心 他 (計122分) 3:00pm	16 第二の母 他 (計119分) 3:00pm	17 鉄扇公主 他 (計118分) 1:00pm	6 日蓮上人 龍乃口法難 他 (計109分) 1:00pm
	24 菅原伝授手習鑑 他 (計102分) 7:00pm	25 怪傑ハヤブサ (77分) 7:00pm	15 忠治活殺剣 他 (計108分) 7:00pm	12 輝く愛 他 (計126分) 7:00pm	5 赤い陣羽織 他 (計112分) 4:00pm	19 萬世流芳 (151分) 4:00pm
15	18 姿なき敵 他 (計101分) 3:00pm	14 中山七里 他 (計85分) 3:00pm	26 心の故郷 他 (計89分) 3:00pm	生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男 (~10月30日)		
	27 現代日本 他 (計96分) 7:00pm	23 一谷嫩軍記 (107分) 7:00pm	7 三朝小唄 他 (計115分) 7:00pm	8月20日 成瀬巳喜男シンポジウム		

■作品により開映時間が異なりますのでご注意ください。

展示室

【企画展】

尾上松之助と
時代劇スターの系譜

Matunosuke Onoe and
the Culture of Period Films

明治から大正にかけて草創期の日本映画界を席卷し、1,000本以上もの作品に出演した我が国最古の映画スター、尾上松之助の業績を、現存する資料を通して顕彰する展覧会。大河内傳次郎、阪東妻三郎ら新しい時代を築いた剣戟スターにも照明を当てます。

【常設展】

展覧会 映画遺産—東京国立近代美術館
館フィルムセンター・コレクションより—

The Japanese Film Heritage
— From the Non-film Collection of the National Film Center —

フィルムセンターが開設から50年の間に収集してきたコレクションの中から特に珍しい映画人の遺品や初期の映画機械などを一堂に集めて展示する一方、過去に行われた映画の発見・復元の成果を紹介しながら、日本の映画保存運動の軌跡を振り返ります。

開室=休館日以外の火曜日-日曜日

(午前11時-午後6時30分/入場は午後6時まで)
料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円)/
大学生・シニア70円(40円)/高校生40円(20円)
*()内は20名以上の団体料金です。
*小・中学生は無料です。
*大ホールで映画をご覧になった方は、当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。
*シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示下さい。

図書室カレンダー

赤字は休室日

8月

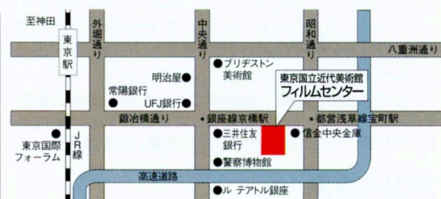
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

図書室(4階) 開室=休館日以外の火曜日-土曜日
(午後0時30分-午後6時30分/入室は午後6時まで)

2階受付では、「NFCニュースレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴズ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:
東京外環線京橋駅下車。出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車。出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京外環線有楽町線銀座一丁目駅下車。出口7より徒歩5分
JR東京駅下車。八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハローダイヤル03-5777-8600
東京国立近代美術館ホームページ:
<http://www.momat.go.jp/>